

第24回日本産業ストレス学会開催報告

平成28年12月吉日

ストレスチェック制度が始動して約一年経過のタイミングで、第24回日本産業ストレス学会を担当させていただきました。11月25～26日の二日間にわたり、会場の学術総合センター・一橋講堂には、医師・研究者・職域の産業保健スタッフ・人事労務管理者等、計930名程の方にご参加いただき、盛会裏に終了することができました。開催に際して、多くの皆様方からご支援とご協力を頂き、誠に有難うございました。

大会テーマは「産業現場におけるメンタルヘルス対策の新展開—ストレスチェック制度と不調者対応の接点を探る—」と掲げ、特別講演2題、教育講演2題、ワークショップ4題、シンポジウム7セッション、特別企画、一般演題38題、ランチョンセミナー4セッション、イブニングセミナーの発表が行われました。特に、ストレスチェック制度の意義と具体的な展開に関しましては、特別講演「産業現場におけるストレスチェック制度の現状と今後の課題」(武田康久先生)、教育講演「ストレスチェック時代の安全配慮義務を考える—職場は何をどうすればいいのか?—」(田辺敏晃先生)ならびに、大会テーマに沿ったメインシンポジウム(次頁写真、シンポジスト:川上憲人先生、今村 聡先生、渡辺洋一郎先生、國分裕之様、座長 小山・神山)をはじめ、一次予防の具体策、面接指導、組織分析と職場環境改善など、同制度に関して多面的に迫り、各領域の第一人者にご登壇いただきました。

同制度の他にも、発達障害と職場における配慮、メンタルヘルス対策に活かす睡眠保健指導、治療と就労の両立支援、健康経営と産業ストレス、働く女性のメンタルヘルス等多彩な話題をワークショップやシンポジウムに盛り込み、多くの専門職の方々にご講話いただきました。特別講演②では、養老孟司先生に「仕事と自分と意識の壁」と題した興味深いお話をいただき、自らのニュアンス、イメージを駆使した自己洞察の機会をいただきました。尚、総会では、日本産業ストレス学会表彰制度 第5回の表彰と受賞者による講演が行われました(学会賞:堤 明純先生、功労賞:小林章雄先生、奨励賞:吉川徹先生)。

大会二日間を通して、受付から会場内に至るまで運営上の反省点多々ございますが、我々自身が会場を隈なく歩く中で感じた熱気のようなものから、今後のメンタルヘルス対策の新展開への一契機となることはできたのかもしれないとも感じられました。本大会が、今後の皆様の産業ストレス研究ならびに実践活動のお役に立つことを願っております。

第24回 日本産業ストレス学会

神山 昭男 (桜メディスン・東京精神科診療所協会)

小山 文彦 (東邦大学 佐倉病院 産業精神保健・職場復帰支援センター)



メインシンポジウム「産業現場におけるメンタルヘルス対策の新展開—ストレスチェック制度と不調者対応の接点を探る—」



大会長 小山文彦（左）、神山昭男（右）